

僕たちのヒーローは みんな在日だった

朴一著

テレビ放送が始まって間もない1950年代半ば、力道山というプロレスラーに日本中が熱狂した。ところが彼はあっけなく死ぬ。63年のことだ。その頃には、プロレスがショーであることを知っている人は多かったが、力道山の出自を知っている人は、ほとんどいかなかった。

言うまでもないが、出身を

隠さなければ、日本人のヒーローにはなれなかった。隠したのは、相撲取りになるために15歳で日本に渡った力道山だけではない。数多くのスポーツマンや芸能人が、在日コリアンであることを隠して活躍する。重ねて言うが、差別がひどかったからである。

いや、今も差別は解消されていないから、公表していな

い人はたくさんいる。今から十数年前の98年、18歳で日本国籍を取得した自民党の国会議員・新井将敬氏が自死しなければならなかったのも、在日ゆえの差別が根底に存在したからだと著者は言う。

最近では、在日であることを公言したり民族名を名乗る有名人もいるが、まだまだ少数派だ。いつになったら、自らの出自や国籍などを隠さなくていい社会が作れるのだろう。(講談社、1500円)